

幼児の食生活に対する母親の意識

島根大教育 猪野郁子

目的 最近の子どもは、ごく幼い時からチョコレートやコーラ類を飲食している。いったい、これらの食品を何才頃から飲食しているのだろうか。子どもの成長と飛躍面から、親はこれらの食品を与えることをどのなりに考えているのだろうか。これらを含めて、幼児期の食生活についての母親の意識をみようとした。

方法 保健所に3歳児検診のため来院した母親と育児センターを利用したことのあつた3歳児の母親に面接あるいは質問紙法により調査を実施した。

結果 (1)調査対象の6割近くの母親は、健康上気をつけて与えるようにしている食品、好まずくないのと与えないようにしている食品をもちている。(2)食事中のマナーについては、まだ知らないということとあまり気にかけていない。(3)乳酪飲料、コーラ類、コーヒー、紅茶、チョコレート、ガム、アメの7品について—乳酪飲料は1歳まで5割の子が与えられている。チョコレート、アメは1歳まで2割以上の子が与えられている。コーヒー、紅茶、コーラ類は2歳までそれぞれ7割の子(与えられたことのある子の)が飲食している。コーラ類は3歳児の(調査人数の)4割の子が与えられている。第2子以降の子の方が第1子より低い年齢で飲食している。飲食の契機は、「兄弟、親が飲食しているから」が大半であるが、チョコレート、アメ、ガムについては「おとこいねい」が4割を占めている。飲食することは、あまり好まないことではないが、しかなないと母親は思っている。(4)おやつを決めて与えている者は7割である。30歳以降の母親、核家族の母親に多くみられる。